バラの言葉

中本祐子

バラ園を歩く
赤子を抱いて歩く
赤子はおくるみの中から
青い目をくるくるさせてバラ園の空を見あげている

きれいだともかぐわしいとも言わないが
一本一本に名づけられたバラの名前も読めないが
なぜここに連れてこられたのかさえも知らないが

自分を抱く胸のぬくもりと
頬にかかる秋の空気の冷たさと
初めて嗅ぐバラのあえかな香りの中で

バラ園にいる誰よりも
赤子はバラの言葉を知っているような気がする

2024/10/14